

子どもの本

研究会

【私の一冊】 雑踏の中のストーリーテリング

菊島 紘子

「最後のひと葉」を聴きたいのですが、……」突然の電話で面食らったが、子どもの本の研究会理事長横田さんの紹介と聞き安心した。

和歌山県のHさんは地元で子ども達におはなし会をしているそうだ。でも、自分の好きなお話が聞きたいとのこと。この話が大好きだという。語り手としては嬉しいことだ。2月20日から22日まで滞在と連絡があり、その日なら小学校のおはなし会と医療センターの活動日なのでHさんには同行していただくことにした。小学校のおはなし会は父母参加授業なので大人の参加も多い。

この日は5年生でおはなしは「朝日長者と夕日長者、パトリック・オドンネルと妖精、いぬとにわとり」おはなし会が終わって、海岸近くで昼食をすませ横浜みなとみらいへ。動く歩道で日本丸、観覧車を見ながらランドマークプラザを通り過ぎクイーンズスクエアのベンチで一休み。おはなしを二つ語った。「あるだんなさんとおかみさんのはなし、尻尾のつり」目の前を人が行き交う中で語り始めたが、お話が進むにつれ、回りは気にならなくなり集中して語れた。Hさんはどうだっただろう。

翌日は 子ども医療センターだ。控え室にはボランティアが次々と集まってくる。Hさんを皆に紹介し院内の案内をした。当センターの霊安室は最上階の6階にある。天国に近くて明るくて、屋上の花壇の花に囲まれてお別れができるようにと前センター長の願いからだ。控室に戻り約束の「最後のひと葉」を語った。

羽田空港では搭乗時間まで余裕があったので、ベンチでおはなしを三つ「ブドーリネク、おいしいおかゆ、牛方とやまんば」雑踏の音を意識して、それらを心地よく受け入れて語れた体験は今までにないことだ。Hさんは良く聞えたと集中できた、と言って下さった。「読んではいけれど聴いたのは初めてのおはなしが多かったです。聴かないとおはなしの良さは分かりませんね。ブドーリネクを覚えてみます。」と云っていた。

(NPO法人 熊本子どもの本の研究会 会員 横浜市在住)